

令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立豊郷中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	129人	算数	128人	理科	128人
第5学年	国語	106人	算数	106人	理科	105人

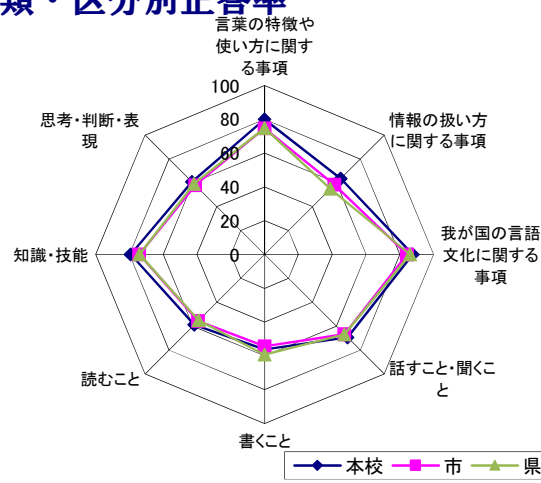
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立豊郷中央小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	80.0	74.7	74.8
	情報の扱い方にに関する事項	63.6	58.4	55.0
	我が国の言語文化に関する事項	87.6	84.3	86.1
	話すこと・聞くこと	69.4	66.7	66.9
	書くこと	56.2	54.3	59.3
観点	読むこと	58.8	55.6	55.2
	知識・技能	79.2	74.1	74.0
	思考・判断・表現	60.8	58.0	59.1



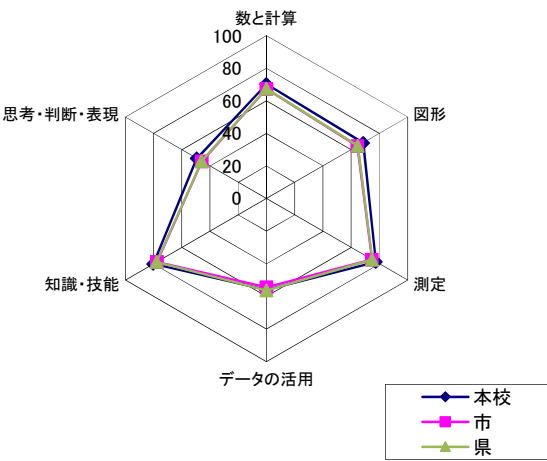
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は県の平均を5.2ポイント上回っている。 ○主語と述語、ローマ字の読み方の問題については、県の正答率を10ポイント以上上回っている。 ●漢字の読み問題については、3問中2問で県の平均を下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の読み書きについては、これまでの学習を継続し定着を図る。漢字練習やミニテストだけでなく、文章の中で使えるような課題を工夫し、語彙力の向上にもつなげていく。 ・ローマ字については、授業内で1人1台端末を使用する際に、積極的にローマ字入力をするように働きかけていく。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は県の平均を8.6ポイント上回っている。 ○短い文章を読み、文意に合う正しい言葉の意味を選択することができている。物語文の読み取りにおいて、形容詞や慣用句に着目した成果と考える。	・日常的に分からない言葉は調べる習慣を身付けられるよう働きかけをしていくとともに、物語文や説明文の読み取りの際には、言葉の意味をよく考えることで内容を深く理解できるような授業展開を行う。また、一つの語句でもいろいろな意味があることに注目させ、その中から文意に合う正しい言葉の意味を選択できるよう定着を図る。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は県の平均を1.5ポイント上回っている。 ○漢字のへん、つくりに関する正答率は87.6%であり、基礎的な学習内容の定着が見られる。新出漢字の学習の際、読み方、筆順、例文と合わせて、へんやつくりなどの漢字の構成を確認することが定着につながっていると考える。	・今後もこれまでの学習活動を継続していくとともに、漢字辞典や漢字ドリルを積極的に活用し、漢字の組み立てと意味について理解を深める。
話すこと・聞くこと	平均正答率は県の平均を2.5ポイント上回っている。 ○相手に伝えるように自分の意見を理由を挙げながら話す問題では、県の平均を3.8ポイント上回っており、話し合いの内容を聞き取り、自分の考えと理由を伝えることができている。 ○聞き取った話をもとに、文脈に合うような言葉を考える問題については、県より0.6ポイントほど高いが、正答率が30.2%であり、やや課題が見られる。	・国語の授業だけでなく、他教科での話し合い活動や学級活動などの機会も活用し、話す・聞くことについての学びを深めていく。 ・話し合い活動の際に司会の役割を経験させ、参加者の発言をもとに考えをまとめる力を身に付ける。
書くこと	平均正答率は県の平均を3.1ポイント下回っている。 ○選択肢からよいと思う方を選び、その根拠を、自分の考えを明確にして書くことができている。 ●指定された文章の長さで書くことや、段落の役割を理解し、指定された段落構成で書くことに課題が見られる。	・作文指導の際、条件を提示して書く活動を取り入れる。段落構成や「始め・中・終わり」という組み立てや文字数を意識して取り組み、徐々に書くことへの抵抗を減らす指導を行う。
読むこと	平均正答率は県の平均を3.6ポイント上回っている。 ○物語文については、全ての問題において県の平均を上回っている。登場人物の気持ちや場面の様子をしっかりと捉えて、文章を読み取ることができている。 ●説明文の書かれている内容を前半と後半に分ける問題において、叙述をもとにして分類することに課題が見られる。	・説明文においては、段落の内容や、段落と段落のつながりを構成図で表し、叙述をもとに内容を捉える力を付ける。 ・物語の内容を読み取る学習では、中心人物の性格・各場面の出来事・気持ちの変化などの観点を示し、観点に沿って読み取る指導を引き続き行う。また、各場面の出来事に関連付け、中心人物の気持ちの変化を捉える力を付ける。

宇都宮市立豊郷中央小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	70.2	67.3	67.4
	図形	68.4	64.5	64.7
	測定	77.5	74.7	74.9
	データの活用	55.9	54.4	56.4
観点	知識・技能	80.2	77.6	77.8
	思考・判断・表現	49.4	45.8	46.1



★指導の工夫と改善

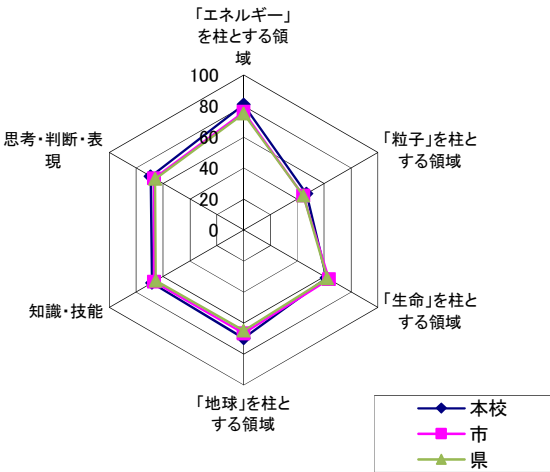
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は県の平均を2.8ポイント上回っている。 ○数の合成や乗法及び除法の計算がよくできている。 また、問題場面と図や式を結び付けて考える問題が県の平均を約7ポイント上回る結果となった。しかし、正答率は55ポイント前後であった。 ●式の意味を説明する問題の正答率は14.8ポイントであり、県の平均を上回っているものの課題が見られる。 ●2桁の整数から小数を引く計算や数直線を読み取る問題の正答率は50ポイント程度であり課題であるといえる。	・計算の仕方を考えたり、問題場面と図や式を関連付けて説明したりする学習を、低学年のうちから丁寧に指導していく必要がある。その際、式に含まれる数字が何を意味しているのか、計算をして何を求めているのかを明確に示したり、説明し合ったりする活動を取り入れていく。 ・整数と小数が混ざった計算については、位を揃えたり繰り下がりに注意させたりし、正確に計算できるよう指導していく。
図形	平均正答率は県の平均を3.7ポイント上回っている。 ○特に、円の直径を示す直線を答える問題は正答率が県の平均を4.1ポイント、三角形を作図する問題は県の平均を3.9ポイント上回っており、基本的な知識がよく定着している。 ●三角形の辺の長さが等しい理由を説明する問題の正答率は43ポイントと、県の平均より10ポイント高いものの50ポイントに満たない結果となった。	・今後も家庭と学校が連携し、家庭学習での復習や授業中のAIDリルを活用などを繰り返すことで基礎学習の定着をはかっていく必要がある。また、考え方を話し合ったり、ノートに書き表したり、他者に向けて説明する活動を行うことで、考えの根拠や妥当性に注目させ、学んだ知識をより確実なものにさせていく必要があると考えられる。
測定	平均正答率は県の平均を2.6ポイント上回っている。 ○特に、時刻を計算で求めたり、重さの単位が適切なものを選択したりする問題の正答率は、県の平均を7ポイント以上上回る結果となった。 ●はかりの表している重さを読む問題は、県の平均を5ポイント下回り課題が見られる。	・測定の学習をする際には、時間や長さ、重さを全員が十分体験できるよう工夫し、実感を伴った理解となるようにしていきたい。また、普段の学校生活でも意識させ、実生活に生かそうとする態度も育みたい。県の平均を下回ったばかりが表している重さを読む問題は、はかりの1目盛りがいくつを表すのかが読み取れなかったことが原因だと考えられる。数と計算でも数直線の目盛りを読む問題の正答率が44.5ポイントであった。1目盛りの表す数を読み取る学習を各学年で丁寧にやる。
データの活用	平均正答率は県の平均を0.5ポイント下回っている。 ○グラフを読み取り答える問題はよくできている。 ●2つのグラフを比較し、分かることを考え答える問題の正答率は18ポイントと県の平均を5ポイント以上下回った。	・今後も1目盛りが表す値を確認しグラフを読むということ丁寧に指導していく。さらに、グラフから分かることを話し合ったりノートに書いたりする学習を取り入れる必要がある。また、自分たちでデータを集め、グラフに表して考察したり、複数のグラフを比べて分かることを話し合ったりする活動を積極的に取り入れることで、本領域の見方・考え方を高められるようにしていく。

宇都宮市立豊郷中央小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	80.9	76.2	75.1
	「粒子」を柱とする領域	46.9	44.5	44.5
	「生命」を柱とする領域	61.8	63.6	62.3
	「地球」を柱とする領域	69.8	66.6	64.9
観点	知識・技能	68.2	66.8	65.4
	思考・判断・表現	69.2	66.8	65.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は県の平均を5.8ポイント上回っており、1問を除く全ての問題で県の平均を上回っている。 ○実験の結果として適切なものを選んだり、鉄くぎが磁石に変化したことを確かめる方法を選んだりする問題では県の平均を10ポイント程度上回っている。 ●磁石に引き付けられる空き缶の材質を選ぶ問題では、県の平均を3ポイント程度下回っている。	・本校が行っている教科担任制の授業により、理科専科の教員が実験の準備、考察等の教材研究を十分に行っているため、児童にとって分かりやすい理科の授業が展開されていると考えられる。一方で、便利なICTツールに頼った生活や新型コロナの影響に伴う生活の変化等もあり、以前は当然のように児童が普段の生活でできていた実体験を伴う活動や遊びを通しての学習が、以前に比べてできていない気がする。結果を知るだけでなく、どうしてもそのような結果になるのかを予想し、体験させ考察する活動を数多く取り入れていく。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は県の平均を1.4ポイント上回っている。 ○形を変えた粘土の重さについて正しいものを選ぶ問題では、県の平均を10ポイント上回っている。 ●姿勢を変えて測った体重の変化を実験の結果をもとに記述する問題では、県の平均を3ポイント程度下回っている。	・学校で行われた実験の結果(粘土の形が変化しても粘土の重さは変化しない。)ということは正しく理解しているが、この結果を実生活で体験していること(姿勢を変えると体重は変化するのか。)に結びついていないと考えられる。上記でも述べたが、児童の生活の中で体験する科学的事象が以前に比べ少なくなっている結果だと考えられる。学校、保護者が連携し、学校生活や家庭生活の中で、児童の体験活動を増やしていく。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は県の平均を0.5ポイント下回っている。 ●正しい草丈の測り方を選ぶ問題や、ホウセンカの成長の様子を観察した順に並び替える問題では、県の平均をおよそ5ポイント下回っている。特にホウセンカの成長の問題は正答率が11.7%とかなり低くなっている。	・植物の一生を定期的に観察して考察する問題が苦手であると考えられる。ここでも実体験を通した学習が不足していることが原因になると考えられる。理科では今後も、動植物のつくりや特徴、成長の過程を観察しながら考察する分野が多々あるので、書物や映像を見て終わりにするような学習にせず、児童に生物学を体験させる活動を随所に取り入れていく。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は県の平均を4.9ポイント上回っている。 ○太陽の動きから影の様子の変化を推測する問題では県の平均をおよそ7ポイント上回っている。また、その他全ての問題についても県の平均を上回っている。	・理科専科の教員が、綿密な計画のもと実験の準備をしたり、温度計等実験器具の使い方を十分に指導したりした結果がここにも表れている。 ・後述の質問紙に対する本校児童の回答によると、理科が好きと答えている児童や、理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えている児童の割合が高いことが分かる。子供たちに様々な支援をしていくのは学校、家庭、地域を含めた我々大人である。技術が進歩しどんどん便利になる世の中ではあるが、日本を含む世界情勢に対する不安、生活していく上での多忙感を感じている大人も多い。そんな時だからこそ大人が一体となって子供たちに向き合い、子供たちに様々な実体験を伴う活動をさせてあげる機会をつくっていくことの必要性を感じる。幸いに子供たちの学習に対する意欲や、自分の将来に対する希望を現す数値は高い。(質問紙から)

宇都宮市立豊郷中央小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○学習への興味についての質問では、ほとんどの項目で肯定回答割合が県の平均を上回っている。社会、算数、理科において、普段の生活でわからないことを端末を使って調べ、活用しようとしている。今後も授業や家庭学習などの学習活動において、1人1台端末を効果的に活用していきたい。読書に関しては、1日当たりの読書時間が30分以上である児童の割合が県の平均を上回っている。さらに、「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」という質問に対する肯定回答割合も71.6%と、県の平均56.2%よりも大きく上回っている。今後も読書への関心意欲を高めつつ、図書資料を活用した学習を効果的に取り入れていきたい。

●授業の様子についての質問では、「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい」「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」という2つの項目では県の平均と比較すると大きく下回っている。このことから、自分の考えや意見を文章や言葉で表現することに苦手意識があることが強く伺える。今後は、学習活動に話し合う活動や意見交換の場をこれまで以上に意図的に設定していくと同時に、互いの意見を認め合える環境づくりに学年全体で努めていく。

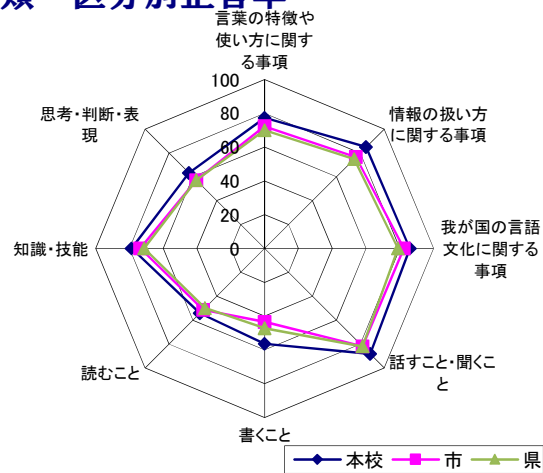
○家庭学習についての質問では、ほとんどの項目で肯定回答割合が県の平均を上回っている。特に「家で、テストでまちがえた問題について勉強をしている」という質問に対する肯定回答割合が71.9%と、県の平均66.4%を大きく上回っている。また、「学校の宿題はやりたくない内容だ。」という質問に対する肯定回答割合が県の平均を大きく上回った。今後も児童の学習意欲を高めるような課題の工夫に努めていく。

○生活の様子についての質問では、「自分は勉強がよくできる方だと思う。」という質問に対する肯定回答割合は68.7%と、県の肯定回答割合の63.5%よりも5.2ポイント上回っており、自己肯定感が高いことの表れだと思われる。また、「家の人としょく来のことについて話すことがある」「家の人はあなたがほめてもらいたいことをほめてくれる」「家の人と学習について話をしている」などの質問に対する肯定回答割合も県の平均を上回っており、保護者が児童の学習に関心を持ち、積極的に学習に関わっていることで、学習意欲が高まっていることが推測される。今後の学校生活においても、家庭と連携しながら、児童が自信をもち、さらに自己肯定感を高められるような活動を取り入れていきたい。

宇都宮市立豊郷中央小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	77.3	72.3	70.0
	情報の扱いに関する事項	84.9	76.4	74.9
	我が国の言語文化に関する事項	85.9	82.4	78.9
	話すこと・聞くこと	88.2	81.9	82.0
	書くこと	56.4	43.5	47.2
	読むこと	54.3	51.4	49.8
観点	知識・技能	78.7	73.6	71.3
	思考・判断・表現	63.3	57.1	57.2



★指導の工夫と改善

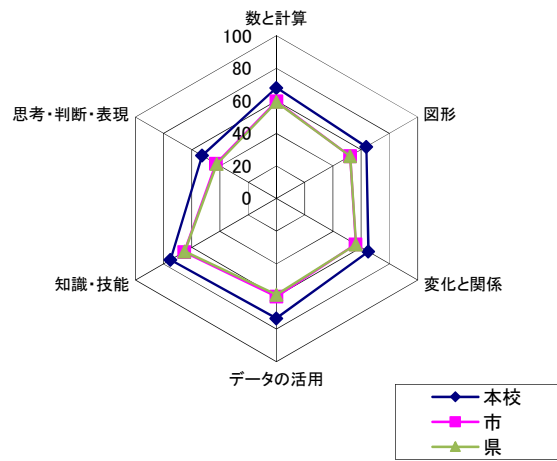
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	平均正答率は県の平均を7.3ポイント上回っている。 ○漢字の書き取りについては、県の正答率を5ポイント上回っている。言葉に関する基礎的な内容を理解していると考えられる。 ●文中における修飾と被修飾の関係を捉える問題については、正答率が21.7%であり、課題が見られる。	・修飾と被修飾の関係については、文法の授業やワークシートやAIDリルなどの練習を通して理解を深めていく。また、文章を読み解く中で取り上げて指導したり、文を書く活動でより詳しく書くための工夫を考えさせたりするなどして定着を図る。
情報の扱いに関する事項	平均正答率は県の平均を10ポイント上回っている。 ○漢字辞典の使い方を正しく理解し、使用することができる。漢字のつくり、へんを正しく覚え、定着してきている。	・今後も、漢字や語彙を調べる際には可能な範囲で漢字辞典を活用する。また、漢字の意味や成り立ちにに興味をもてるような授業展開の工夫や家庭学習の勧め等を行うことで、自ら進んで漢字学習ができるよう指導していく。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は県の平均を7ポイント上回っている。 ○ことわざの表現を理解して、文に合う適切なことわざを考える問題の正答率は85.9%であった。	・たくさんあることわざや慣用句に興味をもてるような工夫をするとともに、ことわざを使った文の意味を考えることや短文を作ることで自分の表現に生かせるような活動を行い、言語感覚を豊かにしていく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は県の平均を6.2ポイント上回っている。 ○話し手が伝えたいことの中心を捉えることができる。また、意見の共通点に着目し、司会者の発言に適した内容を書くこともできている。話の中心を捉えて、自分の中で考えをまとめることができていると考えられる。	・国語の授業だけでなく、他教科や学級活動等の話し合いの中で、話し方、聞き方の指導を引き続き行っていく。話し合い活動を通して、お互いの意見を聞き入れ合い、まとめていく経験を重ねられるよう、意識的にそのような場面を設定していく。
書くこと	平均正答率は県の平均を12.9ポイント上回っている。 ○問題は、指定された長さで書くこと、二段落で書くこと、資料から読み取ったことを書くこと、考えを書くこと、の4つの条件で書くよう提示されており、すべての項目において正答率は県の平均を5ポイント上回っていた。普段から1人1台端末を使って文章を書き、友達の意見と見比べて書き直しをする活動が生きていると考えられる。 ●自分の意見を書く問題については、正答率が50%であり、課題が見られる。また、すべての項目において無回答の割合が20%であった。	・作文指導では、必要な資料を集めて整理し、文の構成を組み立ててから書き始めるという段階を踏みながら、書くようにする。 ・日ごろから授業のまとめ等で、使う言葉や字数を制限したまとめや 振り返りを書く機会を設ける。 ・今後も作文を書く手段として、書くことへの抵抗感が低くなり、推こうもしやすくなる1人1台端末を活用する。
読むこと	平均正答率は県の平均を4.5ポイント上回っている。 ○登場人物の性格を読み取ったり、説明文を正しく読み取り、要約をする問題においては、県の正答率を5ポイント上回っている。 ●登場人物の気持ちの変化について、具体的に想像し、指定された字数で記述する問題の正答率は、県の平均より3.2ポイント下回っている。	・普段の授業の中で物語や説明文を読む際に内容の読み取りを丁寧に行い、文章読解力を高める。また、パッドレットなどのICTツールを取り入れることで、読み取った自分の考えを表現する場を増やし、友達との交流を通して、自分の考えを深められるようにする。 ・今後も司書教諭と連携し、多くの本に触れる機会を設け、児童が自ら本を読みたくなるような環境を作る。

宇都宮市立豊郷中央小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	68.0	59.7	59.2
	図形	63.5	52.1	52.1
	変化と関係	65.1	56.1	56.3
	データの活用	73.4	60.1	58.9
観点	知識・技能	75.1	65.5	65.1
	思考・判断・表現	52.8	42.9	42.4



★指導の工夫と改善

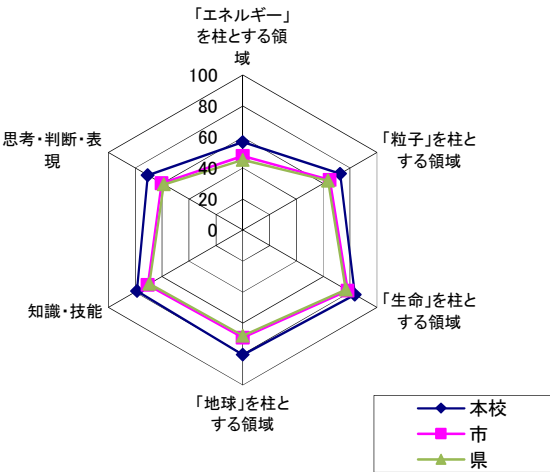
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は県の平均を8.8ポイント上回っている。 ○大きい数や小数、分数のしくみに関する問題では、県の平均を4～15ポイント程度上回っており、基礎的な内容の定着が見られる。かけ算やわり算、分数の計算では、およそ10ポイント県の平均を上回っており、計算の力も高まっている。 ●数を正しく見積もる概数の問題の正答率は26.4ポイントで県の平均を1.4ポイント下回っており、課題が見られる。	・四捨五入、切り捨て、切り上げなどの用語の意味を正確に理解できるよう指導するとともに、それらの用語を使って、身の回りにある数値を概数にする機会を繰り返し設ける。また買い物をする場面など具体的な場面を想起し、日常生活で概数の考え方が生かせるようにする。 ・小数の計算のしくみを説明する問いの正答率も低かった。筆算の計算の習熟だけでなく、計算の仕方の説明を実際に書く機会も設け、説明する力を高めていく。
図形	平均正答率は県の平均を11.4ポイント上回っている。 ○角の大きさを求める問題では、県の平均をおよそ15ポイント上回っている。面積を求める問題では、県の平均を6ポイント上回っており、基本的な知識がよく定着している。 ●身近なものの面積と単位を選ぶ問題では、県の平均より3.1ポイント高いが、正答率が40ポイントに満たないので、課題が見られる。	・低学年の段階から、「長さ」の量に関する感覚を養っていくようにする。その際に、様々な身近な物を活用し、長さを図る活動を適宜設けていく。今回の問題では、「年賀はがき」の面積が出題されていた。長さと同じように、実物を活用し、面積を測る機会を設けていく。 ・「1平方mは何平方cmか」という問いでも正答率が低かったが、同じく具体物を活用しながら、面積の量に対する感覚を養っていく。
変化と関係	平均正答率は県の平均を9.8ポイント上回っている。 ○もとの大きさの何倍になったかを考えて説明する問題では、県の平均を20.8ポイント上回っている。「何倍か」という割合に関する内容についてはおおむね理解できている。 ●伴って変わる2つの数量の関係について、表を縦に見て分かることを説明する問題では、県の平均を6.1ポイント上回っているものの、正答率が31.1ポイントと低く、課題が見られる。	・「数と計算」の項目と同様に、言葉で説明する部分の正答率が低く見られた。比例の関係の設問であり、「○○は△△の何倍か」ということを答える問題であるが、これを言語化するところが課題である。「何倍か」という数字で答える問題の正答率が高いので、授業において、言葉で説明する機会を設けて、習熟を図っていく。
データの活用	平均正答率は県の平均を14.5ポイント上回っている。 ○この領域の問題は、グラフや表から分かることを読み取る設問であった。どの問題も県の平均を10ポイント以上上回っており、内容の定着が見られる。 ●二次元表の読み方についての問題では、正答率が36.8ポイントとやや低く、課題が見られる。	・二次元表の読み方については、その単元の学習をしている時は理解度は高いように思われる。この単元の学習が終わった後、このように表を使ってデータを考える機会というのが少ない。ある程度時間が経った後に、復習の機会を設けて習熟を図っていく。

宇都宮市立豊郷中央小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	56.8	47.8	45.3
	「粒子」を柱とする領域	72.6	64.9	63.6
	「生命」を柱とする領域	83.6	78.2	76.8
	「地球」を柱とする領域	80.5	69.5	68.1
観点	知識・技能	78.8	70.8	69.5
	思考・判断・表現	70.7	60.5	58.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は県平均を11.5%上回っている。 ○「電気のはたらき」では、電流が大きくなる回路を選ぶ設問の正答率が77.1%と高かった。 ●簡易検流計の針のふれる向きが電流の向き、針のふれ具合が電流の大きさを表すことへの理解が30.5%と不十分であった。	・簡易検流計を用いて、乾電池1この場合、乾電池2この直列つなぎ、乾電池2この並列つなぎ、それぞれの回路を流れる電流の向き、電流の大きさを確かめる実験の時間を十分に確保する。また、理科用語を用いて結果をもとに考察し、結論を導き出す活動を通して、理解を確かなものにする。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は県平均を9%上回っている。 ○「もののあたたまり方」の正答率は、金属は97.1%と高いが、水は37.1%、空気は49.5%と低くなっている。 ●「水のすがた」では、水を冷やして凍らせる実験について、ある仮説が正しいとしたら、実験結果はどんなグラフになるかを選ぶ設問の正答率が57.1%と低かった。事実としての、正しい実験結果のグラフを選んでいるのではないと思われる。	・熱の伝わり方の実験結果から、動き回らない固体は順に伝導し、動き回る液体と気体では体積当たりの重さが変化して対流することを、理科用語を使って文章にしたり、図で表したりすることで、それぞれのイメージを明確にさせる。 ・根拠となる理由を明らかにして予想を立てること、結果の見通しをもって実験すること、実際の結果と見通しとを比較しながら考察し、結論を導き出すこと、といった思考の過程を授業の中で繰り返すことで、論理的に考える力を身に付けさせる。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は県平均を6.8%上回っている。 ○季節によって気温や動物の様子が違うことの理解が95.2%と、高い正答率であった。	・自然環境豊かな地域性を生かし、身の回りの自然に目を向けさせ、自然事象への興味関心を高めていく。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は県平均を12.4%上回っている。 ○満月の名称の理解が99.1%、星の明るさと色についての理解が98.1%、数時間後の星の並び方と見える位置の理解が96.2%と、高い正答率であった。 ●「地面を流れる水のゆくえ」では、排水口が作られるところはどこになっているか、水の流れと地面の高低差をふまえて答える設問の正答率が55.2%と低かった。	・水たまりや排水口といった日常場面で実際に確かめることで、水の流れと地面の傾きとの関係への理解を確かなものにする。 ・月や星の動き、水がしみ込んだ土地での災害といった、授業での観察や実験が難しい分野については、ICTツール、図書資料、映像資料を多く活用することで、理解の定着を図る。また、月や星の観察については、家庭への協力もお願いしていく。

宇都宮市立豊郷中央小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○学習への興味についての質問では、「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」「勉強していて、不思議だな・なぜだろうと感ずることがある」「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」「むずかしい問題に出会うと、よりやる気が出る」という問いに対しての肯定回答割合が、県を上回っており、学習意欲は高いと考えられる。また、「分からない国名や地名があったら、インターネットや地図帳などを使って調べている」「算数の授業で問題のとき方や考え方が分かるようにノートに書いている」という問いへの肯定回答割合も県を上回っており、工夫して学習に取り組む姿勢が伺える。

○授業の様子についての質問では、「授業では、自分の考えを発表する機会を与えられている」「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」という問いに対しての肯定回答割合が県を上回っており、授業中の話し合い活動を通して、意見交換がよくできていると考えられる。しかし、「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい」と答えている児童が多く、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」と答えた児童が県の平均を下回っている。今後は、互いの意見を認め合える環境づくりに学年全体で努めていくとともに、授業中だけでなく普段の生活から自分の考えや意見を文章に表す場面を意図的に設定して機会を増やしていくことで、自分の考えや意見を表現することに対する苦手意識を減らしていくようにする。

○家庭学習についての質問では、「家で、学校の宿題をしている」「学校の宿題はやりたくない内容だ」という問いに対しての肯定回答割合が、県を上回っており、宿題への意欲は高いと考えられる。また、「学習塾で勉強をしていますか」という問いへの肯定回答も高い。一方、「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」「家で、テストでまちがえた問題について勉強している」という問いへの肯定回答割合が低かった。今後は、自主学習の内容や家庭学習の時間や内容を自分で計画できるように支援していきたい。

○読書についての質問では、平日の1日当たりの読書の時間が「10分以上30分より少ない」と回答した児童の割合が最も高かった。さらに「1時間以上2時間より少ない」と回答した児童の割合が県と比較して高くなっている。しかし、1か月に読む本の冊数については、「11冊以上」と回答した児童の割合が県の平均と比べて低い。今後は、図書室との連携を図り、家庭や児童への情報公開をしながら読書への関心・意欲を高めるための手立てを考えて実践していきたい。

○生活の様子についての質問では、「家の人と学校のできごとについて話をしている」「家の人と将来のことについて話すことがある。」「家の人は、あなたがほめてもらいたいことをほめてくれる」「自分は家族の大切な一員だと思う」「家の人と学習について話をしている」「自分のよさを人のために生かしたいと思う」「自分も持っている能力を十分に発きたい」などの問いに対する肯定回答割合が高い。このことから、家庭での生活に充実感をもって過ごしていると同時に、自分も周りのために頑張りたいという社会貢献への思いが育っていることが分かる。今後の学校生活のさまざまな活動において、主体性や積極性を大切にし、活躍の場面をさらに設けていきたい。

宇都宮市立豊郷中央小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
話す・書く力の向上	1根拠や理由を明らかにし、順序だてて端的に話したり書いたりする指導 2字数や段落など条件に合った書き方や、文章の中で適切に漢字が使えるような指導 3授業や授業以外、家庭学習等で、自分の考えを表現する活動の工夫	・4年生・5年生とも、国語の「話すこと・聞くこと」「書くこと」のいずれの領域も県の正答率を上回る結果であった。特に5年生は、昨年度は県の平均を下回っていたので、向上が見られた。4年生については、字数や段落の条件があると正答率が低くなる傾向にあるので、引き続き指導していく。また、質問紙から、「自分の考えを文章にまとめて書くのは難しい」と感じる児童が約60%いることや「友達の前で自分の考えや発表すること」に苦手意識をもっている児童も半数近くいること、算数や理科で自分の考えを説明する設問の正答率が低いことから、国語以外の学習の中でも話し合ったり書いたりする活動を意図的に取り入れ、話す・書く力の向上を図りたい。